

地元新聞での募集記事掲載が効果

SDCアゼリア(秋田市) 沼田 容子

今年度のビギナーを募集したところ10名の応募があり、サークル一同ビックリしました。というのも、毎年報道機関・新聞社・ミニコミ誌等に募集のお知らせを掲載して頂いていたのですが、なかなか結果につながらず、今年もかな?と思っていたところ、これまでダンス関係の募集を載せることがなかった地元紙「秋田魁新聞」が掲載してくれたのです。「新聞を見て」と応募の電話があった時の嬉しさは格別でした。会員さんの口コミも強力な募集の要因ではありますが、いかに地元紙の“力”の大きい事か…改めて感じた次第です。

ビギナー講習会が始まりましたが、家の都合や本人の体調などで半分の方がリタイヤしました。残った5人の方は「とても楽しくて」と言って例会の日を待ち望んでくれています。

そろそろビギナークラスを終えようとしているビギナーさん! DOSADOパーティーを一緒に楽しみましょね。



①団地内の回覧板に募集案内を入れた。②朝夕に団地内をウォーキングしている人に、募集チラシを手渡して勧誘した。③子供が小さかった頃の妻の友達(昔のママ友)を誘った。④その人の友達にも紹介してもらった。⑤同じ会場を利用しているサークルの会員に声をかけた。⑥団地外については公共施設やスーパーなどにチラシを置いた。いずれの場合も厚紙に両面印刷し3つ折りにした募集チラシが役に立ちました。質感があり持ち易いので家まで持ち帰ってくれました。結論としては、地道にFACE TO FACEで勧めるしか良い方法はありませんでした。今回は需要のある場所でタイミング良く募集できた。これが一番の理由だったと思います。

ビギナークラスは毎回5セットで進みましたが、近隣のクラブから毎回多くのエンジェルダンサーの協力をいただきました。このことも多くの方が卒業・入会できた要因だったと思います。

仲間との交流が 続けてもらう秘訣

Swingers 'H(札幌市) 有坂 勝彦

我がスウィングーズ'Hでは栗村仁史コーラーの元、年1~2回「ビギナー講習」を開催し、スクエアダンスの楽しさを体験してもらいクラブへの入会を勧めています。

例会が月2回のため、7ヶ月を要します。期間が長いとも感じられるでしょうが、この期間がクラブの雰囲気慣れ、緊張せず踊りの輪に入ることができるようになっていくようです。

また、S協の「コミュニティ25」を基本とし講習を進めていますが、受講生の人数、年齢、習得能力などを考慮しながら講習内容を工夫するようにしています。上手く踊れたときには「とにかく褒める」ことに努めています。

受講生はコーラーを先生と見るので、コーラーから話しかけないとこの関係は縮まりません。積極的に話しかけ垣根を取り払うことにも努めています。

この期間、例会の半分を講習に当てていますが、そこでのクラブ員の協力は欠かせません。踊りながら「手の取り方」「タイミング」等、なにげなく教えてあげています。ちょっとしたことでもビギナーにとっては貴重な助言となるでしょう。

さらに、修了式のデプロマ(修了証書)授与にあたっては、前年の修了生が授与する形態を取っています。このことでスクエアダンスはもちろん、クラブを身近に感じてもらえるでしょう。

踊れることだけでなく、クラブ仲間との交流が出来てこそスクエアダンスを長く続けてもらえるのではないのでしょうか。



クラブを創る夢の実現・その後

森の里リバーサイドSDC(茨城県) 会長 横田紀男

S協ニュース1月号でクラブをつくる夢を書きました。遂に2月6日「森の里リバーサイドSDC」を立ち上げました。それに先立ち昨年9月から初心者講習会を開催しました。当初は何人の応募があるかが一番の不安でした。最終的には団塊の世代を中心に32名の応募がありました。70%は会場まで徒歩5分以内の人です。うち23名が最後まで受講して卒業し、その人達を軸にクラブを設立しました。クラブの所在地はつくば市森の里。私が住んでいる約1200戸の戸建住宅団地を拠点として参加者を募集しました。住民の約半数が65才以上です。募集については決め手がなく、いろいろやってみた結果としてこれだけ集まりました。主な手段をご紹介します。



今年1月23日の卒業式で中央が横田さんご夫妻